

くだ 位田遺跡 現地説明会資料

日程：令和7年5月22日（木）

場所：新見市唐松
位田遺跡発掘調査現場

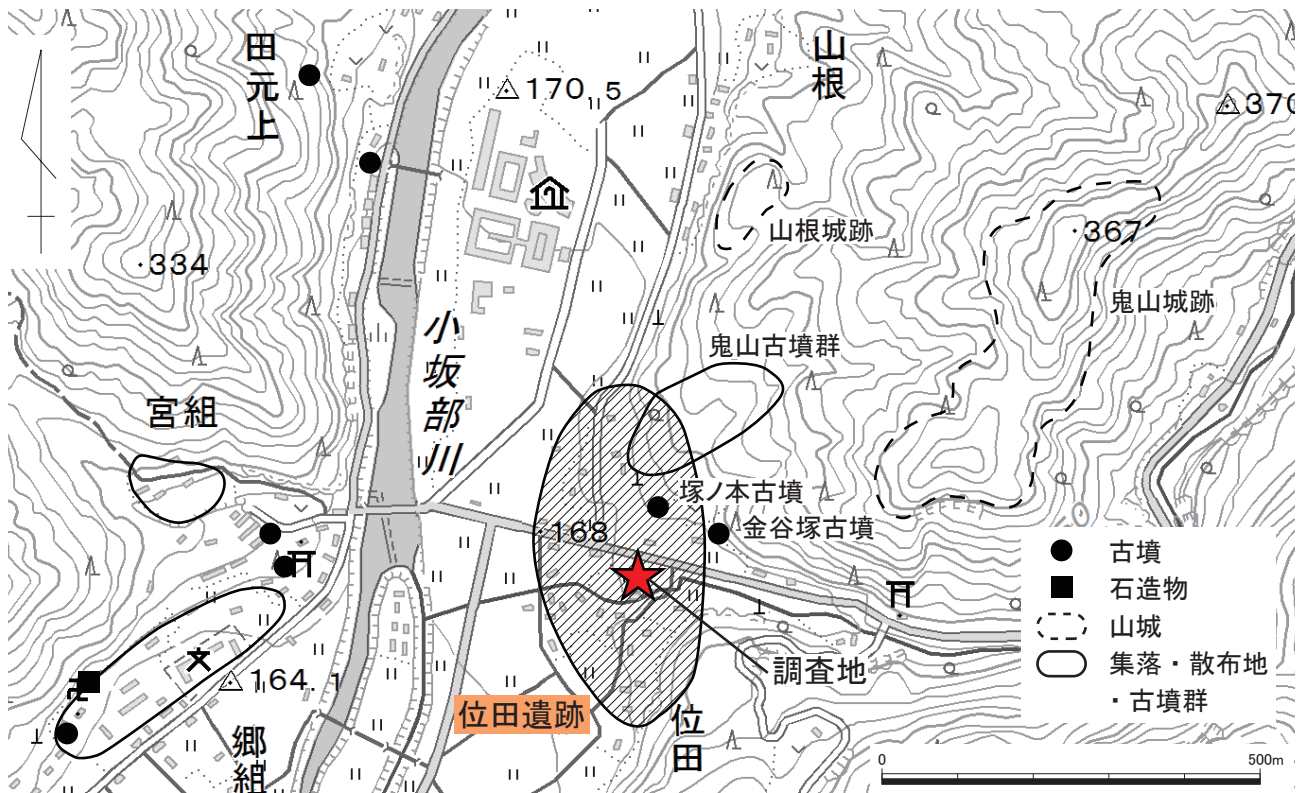
主催：岡山県古代吉備文化財センター

岡山県古代吉備文化財センターでは、県道長屋賀陽線改築工事に伴い4月から位田遺跡の発掘調査を行っています。

位田遺跡は新見市唐松に所在し、鬼山南西麓の緩やかな傾斜地に位置します。周辺にはおにやまこふんぐん、つかのもとこふん、かなやづかこふん、おにやまじょう、やまねじょう、鬼山古墳群や塚ノ本古墳、金谷塚古墳、鬼山城跡、山根城跡等の遺跡が分布しています。

塚ノ本古墳では大正時代以前に、表面に絵が線刻された7世紀頃の須恵器^{すえき}が出土し、現在東京国立博物館に収蔵されています。他に例の少ない遺物であることから注目されます。

これまでの調査では、主に弥生時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が見つかります。Ⅰ区の東端では、多数の柱穴^{はしらあな}を確認しており、掘立柱建物の柱穴になる可能性があります^{ほったてばしらたてもの}。これらの柱穴の時期は主に古墳時代後期（約1,500年前）と考えられます。Ⅰ区の中央では古墳時代後期の^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居を、西側では^{かじろ}鍛冶炉を確認しました。鍛冶炉は一部熱を受けて赤く焼けており、周囲からは^{ふいご}鞴（送風機）の羽口や鉄滓^{はぐち}や鉄滓^{てっさい}が出土しています。



国土地理院電子地形図を加工

位田遺跡と周辺の遺跡（S=1/10,000）

